

安川 揚子

札幌医科大学保健医療学部看護学科 講師

高齢者の安全な生活環境と転倒に関する研究

本研究の目的は、住み慣れた自宅で高齢者の転倒がどのように生じているのかを明らかにすることである。対象と内容：本調査は3段階から成る。調査Ⅰは平成16年に茨城県が実施した「介護サービス利用者の家庭における安全に関するアンケート調査」のデータの一部（n=215）を利用し転倒発生時の状況（自由記述）について分析した。調査ⅡはA福祉センター利用者（n=11）に対し、転倒場所や状況に関して自記式の質問紙調査を行った。調査Ⅲは自宅（n=8）に訪問し、調査票を用いて住環境や身体状況に関する聞き取り調査を行った。3つの調査からみえてくる転倒の状況について建築と看護の視点から検討した。その結果、転倒要因は、転倒直前の動作、転倒の直接的原因、転倒の心理的背景、転倒の身体的背景、転倒の生活環境的背景、転倒の建物環境的背景、転倒の背景にある病気、転倒の背景にある薬剤の8つに分類され、どの事例も複数の転倒要因が重なっていた。さらに、訪問聞き取り調査から、転倒要因を踏まえた安全な生活環境づくりのために、日常生活動線、本人の身体機能と日常生活動作の仕方、加齢による変化を補完する配色や床材などの視点から生活環境を把握する必要性が示唆された。